

## 熊本市中心市街地における回遊のまちづくりに関する臨床的研究教育

建築学科 両角光男

### 1. はじめに

実践的応用力を備えた都市計画技術者の育成には、計画の技術や理論的学習と共に、地域の環境に身を置いて地域の現状や課題を観察学習し、行政や地域の人々と対話しながら、臨床的に学習する機会の重要性が指摘されている。筆者らも、平成17年度に熊本大学工学部まちなか工房(以下、工房と略す)を開設して以来、ここを拠点に臨床的研究教育を展開してきた。

平成18年度には、熊本市が、商店街などの市民団体や企業や熊本商工会議所などと共に熊本市中心市街地活性化協議会を設立して、中心市街地活性化に向け、各種事業の計画策定と実践に取り組み始めた。工房も協議会に参加し、その推進役として活動してきている。

特に平成19年度末には、同協議会幹事会及び通町・桜町周辺地域部会で、通町・桜町周辺地域における市民の回遊実態を調査したいとの意見が出された。すなわち回遊の地域的偏りの状況や、その偏りと大型店や大型駐車場などの集客施設配置と回遊行動との関係、さらには、市民の消費と回遊行動の関係などである。また平成21年度には5月開催のくまもと城下まつりの集客効果把握も課題となった。

これまでの実績で、地元組織と連携した研究教育は内容的にも動機づけの点でも効果が大きいことが確認できていたことから、平成21年度も、卒業論文や修士論文学生を核に工房学生の研究チームを作り(図-1参照)、次項に示す調査研究に取り組んだ。

本稿では、プロジェクトの概要や実施体制、作業経過などを紹介した後、学生の研究教育の視点から、協議会と連携したことの効用と課題について述べる。

### 2. 21年度の研究課題

#### ①中心市街地来訪者の来街・回遊・消費の傾向

平成20年度及び21年度に実施した調査資料を用いた、来訪頻度(郊外SCや福岡市との使い分け)、来訪目的滞在時間、訪問箇所数、訪問地区、消費金額等の性・年齢別及び、平日・休日の比較分析

#### ②中心市街地来訪者の回遊行動経路とその広がり

平成20年度及び21年度に実施した調査資料を用いた平日・休日来訪者の回遊経路、訪問地点の広がりや重なり、移動距離、及び、核店舗や駐車場・停留所・カフェなどの休憩場所が回遊の広がりにあたえる影響の分析

#### ③くまもと城下まつりの集客効果に関する調査研究

イベント時の来訪者数及び消費金額の推計、平成20年度に調査した通常休日の来訪者との比較分析、イベント参加

者のイベントに対する意見意向の把握

- ④熊本市上通並木坂東側を事例とした夜間景観調査  
商店街の眺めの時系列変化と昼、夕、宵、夜間における魅力要素、阻害要素の抽出、魅力向上策の提案

### 3. プロジェクトの実施状況

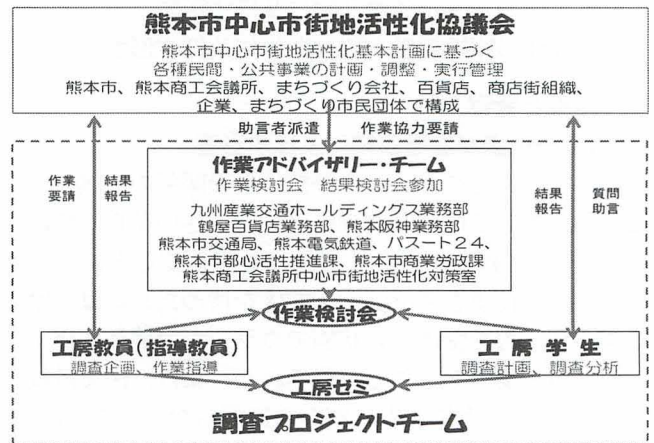


図-1 調査プロジェクトチームの構成

協議会構成員の企業〇社と熊本市の関連課、商工会議所などでアドバイザーチームを編成した。また工房には、3名の工房教員と、その指導を受ける2名の学部学生、4名の修士学生、1名の博士学生でチームを編成した。工房教員のアドバイスで工房学生が調査を企画し、工房ゼミ及び、アドバイザーチームとの作業検討会で作業計画を具体化し、調査票を設計した。調査結果分析も同様の体制で実施し、節目で協議会の部会や幹事会に報告した。作業経過を表1に示す。

表-1 作業経過

4月	まつり効果の研究計画、調査計画検討
5月	まつり効果調査作業チーム編成、アドバイザーチームとの協議 警察等への道路等への使用許可申請 来訪者調査：31日(日)くまもと城下まつり
6月～8月	まつり調査速報の取りまとめ、熊本市等への報告 中心市街地来訪者の回遊行動追加調査の設計 夜間景観調査記録方法の設計と試行 アドバイザーチーム協議、熊本市調査との摺り合わせ 回遊行動追加調査時の警察等への道路等使用許可申請 回遊行動調査：8月21日(金)、23日(日)
9月～12月	夜間景観調査実施。各調査結果の分析と資料整理。 建築学会九州支部研究報告論文投稿 卒業論文提出と発表 12月19日(土)
1月～3月	調査結果分析と資料整理(大学院生) 修士論文提出と発表 2月13日 日本建築学会九州支部研究報告会発表 3月7日 アドバイザーチーム等地元組織への報告



図-2 くまもと熊本城下祭りの風景 図-3 回遊行動調査当日の点呼風景と調査風景 図-4 くまもと城下祭り来訪者数調査地点

#### 4. プロジェクトの成果

中心市街地活性化事業の評価や、中心市街地の計画策定調査という実践的課題を扱うことになった。平成20年度に2000人もの来訪者に対してヒアリング調査したのに引き続き、平成21年度も、くまもと城下祭りでは200人、1月の回遊行動追加調査では200人にヒアリングしたなど、大量の資料を収集し、熊本市の行政資料とするため限られた時間内に集計分析する必要があったなど、かなりハードな作業となった。

しかし、アドバイザーチームの指導助言を得ながら、熊本市の関係課との共同作業したことは、使命感や成果の達成感を得る上で、効果があったように思う。また、調査に際して、延べ80名を超える同級生や友人の協力を得たが、調査開始前の朝礼点呼に始まり、携帯電話による作業状況の監視など、作業の質を保ちながら効率良く人を動かす方法を学生同士で工夫し、組織としてうまく機能した際のパワーの大きさを実感できたことは、貴重な経験となったように思う。

平成22年4月30日に第二回の「くまもと城下祭り」が開催されることになり、熊本市からは、平成21年度同様の調査を実施し、比較分析するよう、工房に作業依頼があった。行政や地元関係者の信頼を得た点でも、20年度の取り組みは成果があったといえよう。

一連の作業を踏まえた研究教育の直接的成果としては、2編の卒業論文と、3編の修士論文が誕生しており、平成22年3月には日本建築学会九州支部研究報告会で4編の研究報告を発表した。

指導助言をいただいた、アドバイザーチームの方々や商店街企業関係者、さらには、経費支援をいただいたものづくり創造融合工学教育事業及び熊本市の関係課に、この場を借りて、謝意を表します。

#### 表-2 プロジェクトで発表した学生の論文リスト

知識圭、くまもと城下祭りの集客効果に関する調査研究：イベント時と平常時における来街傾向・消費傾向の比較分析、平成21年度建築学科卒業論文

山崎麻佑子、平日・休日別及び世代・性別にみた来訪者の来街傾向・回遊傾向・消費傾向分析：熊本市中心市街地来訪者の来街傾向・回遊傾向・消費傾向に関する研究、平成21年度建築学専攻修士論文

川野優美、利用交通手段別にみた来訪者の回遊の広がり比較分析：熊本市中心市街地来訪者の回遊行動に関する研究、平成21年度建築学専攻修士論文

津田晃平、連続立面写真を用いた通り景観の時間変化の分析：熊本市上通並木坂東側を事例とした夜間景観に関する研究、平成21年度建築学科卒業論文

坂元純、知識圭、岡松はるな、川野優美、山崎麻佑子、内山忠、両角光男、調査の考え方と推計来訪者数の比較考察：イベント時と平常時の比較による「くまもと城下祭り」の集客効果の分析(その1)、日本建築学会研究報告、九州支部、第49号・3、PP.257-260

知識圭、坂元純、岡松はるな、川野優美、山崎麻佑子、内山忠、両角光男、属性別来訪者数及び消費金額から見た集客効果の考察：イベント時と平常時の比較による「くまもと城下祭り」の集客効果の分析(その2)、日本建築学会研究報告、九州支部、第49号・3、PP.261-264

原隆、津田晃平、内田壮一郎、両角光男、連続立面写真の作成とアンケートによる景観の魅力や問題点の考察：昼夜間の時間経過に伴う景観の変化に関する研究(その1)、日本建築学会研究報告、九州支部、第49号・3、PP.321-324

津田晃平、原隆、内田壮一郎、両角光男、連続立面写真を用いた建物単位の分析と改善案の検討：昼夜間の時間経過に伴う景観の変化に関する研究(その2)、日本建築学会研究報告、九州支部、第49号・3、PP.321-324